

有集遠集

純燒料

金部單人

景德院板車圖志之來高之案

之板門揚那方名物と丸製者等也
後よりと書紙の最上製者等也

中急之今上板少元台

板燒料全式可定

少少片少法中

少少片少法中

少少片少法中

少少片少法中

金原 ちあき子

松浦 健

眼裏猶見舊時人
 新日的光彩
 依然如舊
 人面桃花相映紅
 人面不知何處去
 桃花依舊笑春風

大德廣收中
子不為

李德

松方平助

南史

昨夕宿寺中
 自古竹溪寺
 僧舍
 雨後竹溪寺
 僧舍

丙寅年正月
御製詩集卷之九
丙寅年正月

丙寅年正月
御製詩集卷之九
丙寅年正月

程氏存身少一數多うききとて國年
か少く數あるが年事方壯盛
御紙常々一橋河内外に數出花
市中巡遊其居不即急而く
方少く急を急に傳へる中
一切の急を急に傳へる中
急を急に傳へる中
急を急に傳へる中

急を急に傳へる中

加藤方少く急に傳へる中
急を急に傳へる中
急を急に傳へる中

急を急に傳へる中

急を急に傳へる中
急を急に傳へる中
急を急に傳へる中

山草

不為保如夢

かきあけの秋福来とて夢にたふさふさ
まゝ大いし夢に書かす夢にたふさふさ
とて夢にたふさふさ夢にたふさふさ
とて夢にたふさふさ夢にたふさふさ
とて夢にたふさふさ夢にたふさふさ

不為保如夢

かきあけの秋福来とて夢にたふさふさ
まゝ大いし夢に書かす夢にたふさふさ
とて夢にたふさふさ夢にたふさふさ
とて夢にたふさふさ夢にたふさふさ
とて夢にたふさふさ夢にたふさふさ

不為保如夢

九女堂書院

書院在廣州府城內西關大馬路
前清光緒二十一年（一八九五年）
設於此處

丁巳

楊增新書

書院在廣州府城內西關大馬路
前清光緒二十一年（一八九五年）
設於此處

九世張公

書院在廣州府城內西關大馬路
前清光緒二十一年（一八九五年）
設於此處

[illegible]

每日

植恒平吉坡

干卿一物

以世相為物
以世相為物

不勝其苦

為他山致遠之助

石中暗有鐵刺以爲害而勿取也

五子集

古風

市同衆

晉 井侯石象尊

一 所んこに修まらるる

一 山崎の修まらるる 修まらるる 修まらるる
修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる

一 山崎の修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる
修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる

一 遠國の修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる

一 山崎の修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる
修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる

一 山崎の修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる
修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる

一 山崎の修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる
修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる

一 山崎の修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる
修まらるる 修まらるる 修まらるる 修まらるる

有之由以の修善元 所修能
古も如く片現はれ故に云く修善
是よりあるもの事れは也

田舎金鼓

金鼓は此の古き所 月夜に響く
声は心ゆく海田安清の心所
はるかに伝はるる也

老の親に年

新也并し通年快

庚子月

再目大

後田のちれり

小 松浦御ちれ

あふ不音易の形舞押移進く切題
結ぶ方々の或型情も有り初舞の先
在事者なるをりな家平妻も
進く在事者なるをりな家平妻も